

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年5月15日

事業所名 八尾市立障害者総合福祉センター

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	0%	少人数で活動することに問題はない。児童が活動に集中するのが難しいときもあるが、異年齢の利用者からもフレンドリーに声をかけてもらうことができるフロアになっている。成長につれスペースが狭く感じるときもある。	フロア環境を話し合い、より過ごしやすいように配置等変えていく。スペース、動線を再度検討していく。
	2	職員の配置数は適切である	75%	25%	0%	配置基準に基づいた配置数になっている。児童の人数に沿って適正な人数を配置している。	配置基準は満たしているので、休憩交代の方法など工夫していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	0%	館内はバリアフリーである。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	25%	0%	児童発達支援管理責任者より、支援方法の振り返りを行い、新たな目標を伝えている。そのための姿勢や道具なども話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	面談時でも意向を尋ねるようにし、改善できることは改善するようにしている。	保護者とのやり取りは日頃より電話、面談、送迎時などに実施している。保護者との関係を深め、コミュニケーションの取りやすい環境を作っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	ホームページ上に載せている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%	0%	外部評価という名目ではないが、他の職員や専門職から意見をきいたりしている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	職員で自主的にワークショップを行った。来年度も継続予定。サポーターズカレッジなどオンライン研修も行っている。職員事務室に研修の案内を貼りだし参加者を募っている。	ワークショップについては令和5年度は残念ながら1回しか開催できなかった。来年度は回数を増やしていく。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	半年に1回、アセスメントを行っている。保護者との面談、職員会議での意見交換を経て個別支援計画を作成。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	月ごとに会議をしたり、意見を出し合い、確認もしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	季節に合わせた行事やレクリエーションを常に取り入れている。今までに行っていない、新しい取り組みを話し合い行っている。感触遊びを取り入れている。	うまくいかなかったことや準備が十分でなかったと感じることがあれば、話し合い、次に生かしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	75%	25%	0%	長期休暇でしかできないことを年間プログラムで設定し、実践できた。夏休みにプール遊びだけでなく、川遊びやキャンプファイヤーなども企画した。	ミーティングを行い、週案、レク案を決め、それに沿って個々に気を付けることを伝達している。前日なども打ち合わせをしていくように努める。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	個別活動、集団活動とそれぞれの発達課題を見極めたうえで計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	75%	25%	0%	ミーティングを行い、利用児についての把握、支援の注意点等の情報を共有する。	出退勤の時間の関係や送迎の関係で打ち合わせの時間が一定しないが、時間を設けて必ず実施している。後での引継ぎも徹底している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	0%	25%	当日は送迎などで職員が一度に揃わないため、当日に振り返りを行うことは難しいが、翌日のミーティングで必ず共有している。	個々で気になったことは、児童発達支援管理責任者より伝えて改善に努めている。また変化が見られた点や、よかった点を伝え、職員の質向上に努めている。支援終了後も振り返りを行う時間を確保できるようにしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	必ずその日のうちに記録をつけている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	面談を実施し、会議の際に話し合っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	0%	ガイドラインや保育指針等に基づき支援計画を作成し、職員へ個々の支援方法を伝達している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	送迎時に確認したり、様子をお伺いするなどしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	0%	直接主治医とのやり取りはないが、指示書等、保護者を通して医師よりいただいている。	医師からの指示書の期限が切れないようチェックしていく。指示書に基づき、看護職と保護者、保育士、機能訓練士の他職種で体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	0%	通園施設と連絡をとり、気になることや支援方法を聞き取り、情報収集に努めている。その他、事業所との引継ぎや保護者からの伝達もある。	当センターの児発利用時については、食事や排せつなど基本の引継ぎはもちろん、実際に支援に加わって、様子など引継ぎをおこなっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	0%	担当職員に情報を提供して引継ぎを行っている。	当センターでの移行は担当者に伝えている。他事業所は相談員などを介して伝えるようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	25%	0%		外部での研修参加が難しいため、内部研修を行い、質を高めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	25%	75%	日程調整など様々な要因があり、実現できていない。	感染症等の流行状況も踏まえて、どのような活動ができるのか、話し合っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	25%	0%		児童発達支援管理責任者が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	連絡帳にて情報交換、共有を行う。また、気になることは電話して、確認した上で共通理解をはかっている。送迎時に確認することもある。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	0%	フォローが必要な家庭については、アドバイスをしたり、相談のある家庭にも支援・対応をしている。	職員間で状況を話し合いながら、ニーズに合わせたフォローを行っている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%		契約時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	25%	50%	以前、保護者会の日程を設定したが、都合が合わず参加が難しい方が多かった。その後、新型コロナ対策等もあり、対面での集まりはで行っていない。	保護者同士でのつながりはすでにあり、情報交換など行われている様子。保護者を交えた企画をしてみるなど検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	すぐに保護者に連絡し、詳細の聞き取りをした原因を探り、改善案を返答。すぐに実施し、写真も添えて対応改善を発信した。相談支援員にも同様に情報共有を行った。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	今年度より、Instagramを活用し、毎週のプログラムの発信や、活動の様子を載せている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	お知らせの漢字をひらがなにするなど工夫している。また、細かいところや重要な事柄については電話をする・送迎時に直接話をするなど配慮し、意思疎通、確認を行っている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75%	0%	25%	施設での行事は、感染対策を十分に行って開催しているが、同時に参加できる人数制限、時間制限等がある。 玄関スペースにて展示等行い、デイ利用者だけでなく、地域の方にも展示を見てもらうことができた。		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	50%	0%	緊急、防犯マニュアルは保護者に発信できていないが、感染症対応マニュアルはあり、コロナ禍では対応を都度お手紙として配布した。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	火災を想定した防災訓練を消防署立ち合いのもと実施した。	今後は地震など他の災害も想定し訓練する。他職種との連携もとっていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会を開催した。	今後は委員会を中心に、研修なども検討していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	身体拘束を行う際は、必ず事前に保護者に説明し、書面にて同意をとり、了解を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	加工食品など混入が明確に分かりにくいものについても、メニュー表で常に確認を行い、保護者とも共有している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	職員が提出したヒヤリハットをまとめて事例集として各部署に回覧し共有している。	